

# さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ  
～笑顔あふれる幼稚園～



NO. 5 令和4年10月25日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

木の葉も少しずつ色づき始め、秋らしくなってきました。過ごしやすい気候の中で、子どもたちは、体を動かすことを楽しんだり、虫や木の実などの自然に触れたりして過ごしています。また、教育実習生に見守られながらやりたいことを思う存分楽しんだり、運動会や登山遠足など少し難しいことにも挑戦したりする時期でもありました。そのような生活の中での年齢ごとの育ちをお伝えします。

## 教生先生と一緒にたくさん遊んだよ！(花組)

2学期が始まって、すぐに教育実習が始まりました。初日から子どもたちは教生先生に興味津々です。「先生なんて名前？」「私ね4歳になったんだよ。」「先生こっちに来て、こっちはオバケの森があるよ。」などと質問したり、知っていることを紹介したりする子どもたち。約2ヶ月教生先生と一緒に自分の好きな遊びをしたり、絵の具を使った製作活動をしたり、運動会や遠足などの行事も一緒に過ごしました。

製作では、スタンプングをしました。教生先生の手作りタンポ(ガゼの中に布などを詰めて輪ゴムで縛ったもの)に絵の具をつけて、大きな画用紙に思い思いにスタンプしていきました。Aちゃんは、「私はね、赤が好きなの。」と言いながら赤色の絵の具をつけて、「ポンポン」と大きな画用紙に腕を目一杯伸ばしてスタンプングを楽しんでいました。教生先生が「赤でいっぱいになったね。」と言うと、それを聞いて見に来たBくんが「僕もしたい！僕はね、全部の色でいっぱいするの。」と赤・青・黄のスタンプでダイナミックにスタンプをしていました。Cくんは、スタンプしてできた形を見て「先生、動物の足跡みたい！」と教生先生に笑いながら伝えると、隣にいたDくんが「僕のは恐竜の足跡みたい！」と足跡に例えながらスタンプングを楽しむ姿がありました。タンポを押す感触を楽しんだり、色や同じ形がつくのを楽しんだり、手作りタンポならではの形を思い思いの足跡に例え、イメージをもちながらスタンプングを楽しんだりしました。

あっという間の実習でしたが、教生先生と過ごす中で、自分のしたいことを満足いくまで楽しんだり、たくさん話を聞いてもらったりと心も体も充実した日々となったのではないかと思います。

最近では、自分の好きなことをする中で、少しずつ友達を感じたり、友達と遊ぶことが楽しくなったり、「やってみようかな」と興味をもって自分からかかわる姿が増えてきて嬉しく感じます。友達とのかかわりが増えた分、思い通りにならないことや自分の思いを伝えようとして「ダメ。」「嫌。」などと強い言葉になってしまったり、手が出ることもあったりもします。そんな時、保育者が間に入ってゆっくり話

を聞きます。「OOちゃんと一緒に座りたかったんだね。」「OOくんと同じものがよかったんだね。」などと思いを言葉にして受け止め、その後、どのように伝えたらよいかを言葉にして知らせています。「ここに座ってもいい？」「かして？」って伝えたらいいよ。などと繰り返し、相手に思いの伝え方を知らせています。これからたくさん友達と遊ぶ中で、心を通わせいろいろな経験をしてほしいと思います。(尾川)

## 好きなことを何度も繰り返し楽しんで(風組)

運動会で見た星組さんのリレーの姿に憧れて、風組の子どもたちもリレーが大好きになりました。なかでもAちゃんとBくんは、大庭で星組さんがリレーをしていると自分から「入れて。」と仲間に入り、毎日星組さんに交じって走っています。そんなある日、「誰か、一緒にリレーしよう。」「いいよ。じゃあ、星組に行って丸いの(バトン)貸してもらおう？」と言い風組の保育室から出ていったAちゃんとBくん。そんな姿を見て、保育者が「友達と誘い合って、遊びに必要なものまで自分たちで借りてくるようになったのか。」と二人が見せたたくましさ嬉しさと寂しさを感じていると、「先生、リレーしたい。」と何も持たずに帰ってきた二人。保育者が「星組さんに、バトンを借りに行ったのかと思ってた。」と言うと「やっぱり、恥ずかしかったから先生が行ってきて。」とBくん。星組さんが開いたお店屋さんに誘われたときには、喜んで出入りしていた星組の保育室です。毎日星組さんとリレーをして、その堂々たる走りっぷりは、もうすっかり星組さんのようなAちゃんとBくんです。そんな二人でも、いざ自分たちから星組の保育室に入っていくとなると、恥ずかしくなるんですね。星組さんへの憧れの気持ちが表れたかわいい姿です。

跳び箱や鉄棒や長縄にも挑戦してきた風組さん。何度も何度も跳び箱に挑戦するCちゃんとDくんに、アドバイスをくれるのは星組のEくんです。「風組さんは、二段がいいよ。」「ここに手をついたらとべるよ。僕がやってみるから見てよ。」と親切に教えてくれます。CちゃんDくんも汗をかいてはお茶休憩をして、また跳び箱へと向かいます。Eくんの経験をもとにした的確なアドバイスと、二人の挑戦し続ける粘り強さで、Cちゃんたちは、それぞれが跳びたいと思っていた高さが跳べるようになりました。

最近の風組は、朝から「Fちゃんまだ来てないの？」と友達が登園してくるのを心待ちにしていたり、「Gくん、先に裏庭の滑り台に行ってるから、それつくったら来てよ。」「うんわかった。すぐ行く。」と誘い合って遊んだりする姿が見られます。また、「Hちゃんがつくってるのかわいいね。どうやってやったの？」とか「OOってことしよう。」「いいね。」など、友達の素敵なところを言葉にして伝えたり、友達の言ったことに賛同したりする姿も多くなってきています。

運動会后、子どもたちは、保育室や裏庭で風組の実習生に、遊戯室や大庭では星組の実習生にも見守ってもらいながら、それぞれがしたいことをじっくり取り組んだり、やってみたいことに何度も繰り返し挑戦したりしながら楽しんできました。自分がしたいことを思う存分楽しんだ満足感が、友達の良さに目を向けることにつながっていると

思います。今後、友達とのかかわりの中で、自分の思うようにならないこともあると思いますが、お互いに自分の思いを言い合ったり、友達の思いに気づいたりすることを大切にしながら、友達と一緒に遊ぶことがもっと楽しくなるような秋にしたいと思っています。(中原)

## 友達と一緒に一つひとつ乗り越えていって(星組)

運動会が終わってからも、さらなる目標をもち、鉄棒や跳び箱をできるようにするまで繰り返し頑張る星組。最近では、一輪車や縄跳びに繰り返し挑戦し、少しずつできるようになっていくことに喜びを感じながら頑張っています。日々、子どもたちの成長を感じているところですが、「大きく成長したな。」と感じた2つの出来事を紹介します。

登山遠足では、幼稚園から途中まで花組を連れて行きました。花組と別れてからは、星組だけが山頂を目指して歩きます。初めは花組と一緒に笑顔いっぱいだった子どもたち。ゆるやかな坂道から、だんだんと急な階段の道になっていくと、子どもたちの顔も険しく真剣になっていきました。油断すると滑ってしまうので、一歩ずつ足元を確かめながら進んでいきます。先に登った子どもが後ろを振り返り「頑張れー！」と声をかけたり、「ぼくの手をもって。」と手を差し出したり、「ここをもったらいいよ。」と教えたりと、友達のことを気にかけていました。後ろの方にいる子どもも、前の子どもがゆっくり進んでいても、「頑張れー！」と応援しながら立ち止まって待っていてくれました。みんなで励まし合いながらやっとのことで山頂に着くと、子どもたちは達成感に満ちた表情をしていました。山頂でも「花組さんは着いたかな？」「大丈夫かな？」と花組のことをずっと気にかけていて、「星組は頼もしいな！」と感じました。

教生先生が考えた、鬼ごっこボール運びリレーを組み合わせた『おばけリレー』をクラスの友達と一緒にする機会を設けました。それぞれのゾーンにいる鬼(おばけ)に捕まらないようにしながら、向かい側に置いてあるボールを走って取りに行きます。リレーを始めたときは、鬼の動きが速くすぐに捕まってしまうため、なかなかボールが取れませんでした。次第に、チームのメンバーが走っている友達の様子を見て応援するようになっていきました。ボールが取れると、チームのみんなで飛び跳ねて大喜び。子どもたちが、「星組みんなでやりたい。」「風組さんとも一緒にやりたい。」と話していたので、好きな遊びの中でも楽しめるようにと環境を用意しました。登園するとすぐに、「おばけリレーをしよう。」と星組1の友達の誘い、たくさんの友達と一緒に遊び始めました。全てのボールを取り終えると「もう一回しよう。」「おばけのお面をもらった人が鬼ね。」「次は、男の子対女の子でやろう。」と遊び方を提案したり、「OOちゃん、タッチされたよ。」「鬼が線から出てたからセーフやない？」「わからないからもう一回しよう。」と自分たちでルールを確認したりしながら繰り返し楽しんでいました。教生先生に教えてもらった遊びを、自分たちだけで進めようと協力していました。

運動会や登山遠足などの少し難しいことにも、友達と一緒に協力したり励まし合ったりしながら一つひとつ乗り越えて達成感を味わった経験から、遊びや生活の中でも友達と一緒に相談し、助け合いながら一緒に乗り越えていくように支えていきたいと思っています。(松村佳)

